

ごみを減らそう!!

ファッションブティック
感覚のリサイクルショッ
プの店頭。(上京区にて)



家具や事務機、家電製品
をおもに扱う店もある。
(北区にて)



子供服を専門にした
ショップ。(北区にて)



新品同様の品も少
なくない。



店内には衣料から宝石類・
アクセサリー、バッグなど
が並び品揃えが豊富。

gomi情報最前線

京の街を歩いていて、最近目に行くのがリサイクルショップ。「アレっ、こんなところにも」と、足を止めると、店構えは意外にファッションブル、フラリ入ってみたいくなるほど、気色な雰囲気だ。店に立ち寄る人も老若男女、色とりどり。
NITのタウンページにリサイクルショップが登録されるようになったのは、平成3年。以来、件数は増え、京都市内では164軒(平成13年6月現在)が店を開いている。

「不要になった品物を持ってきて、欲しい品を買って帰る人が多く、気軽に利用されています」と、上京区にあるリサイクルショップの店長。ただし、「捨てるのはもったいないか」というのではなく、「その時気に入ったモノを飽きるまで持ち、また気に入ったモノを探すと、客の心理を読んでいる」といふ。確かに、客を魅了していると中古品へのこだわりはない。リサイクルショップは、いわゆる定価はない。不要品を持ち込め人が希望価格を提示し、店側が値踏みをして購入、店はその品物に価格を付けて販売する、という仕組みで成り立っている。ここにはメーカーは不在だ。
リサイクルショップは、モノと人との関係の変わりようを物語ってははいまいか。所有から使用へ、長く使えるモノから着替える感覚のモノへ。いずれにしてもリサイクルショップがごみ減らしに大いに貢献することは間違いない。これが一時のブームに終わらないことを祈りたい。

生ごみリサイクルを実践する市民たち

いろいろなやり方で 堆肥づくり

京都市では、家庭ごみの約40%（重量）にあたる生ごみが排出され、年間約3万5千トンにも及んでいる。その内訳を見ると、食べ残しや手つかず食品が増え続けているのが実状だ。しかし一方、市民サイドで生ごみのリサイクルに取り組む事例もあり、いろいろな手法で実践の輪が広がっている。今回は、市民の事例を追った。



なんきんはげの会の方々。左より、鈴木さん、上田さん、野崎さん、吉田さん

ペットボトル容器を活用し、
手軽にEM法でリサイクル

！なんきんはげの会(西京区)！

EM法のEMとは、有用微生物群(Effective Microorganisms)の略。嫌気性発酵により堆肥化するもので、乳酸菌、酸生成菌、光合成細菌、放線菌などが含まれているといわれる。環境への意識を持ち、ごみ減らしにも取り組んでいた、上田雅子さんからEM法を知り、自分たちでやってみよう、なんきんはげの会(鈴木總代表、会員7名)というグループを結成した(昨年3月)。当初は、EM専用のバケツを使っていた。

その後、試行錯誤の結果を持ち寄り、また情報交換を積み重ね、手軽にできる方法を工夫した。資源ごみとして回収されるペットボトルの飲料容器を用いる方法を編み出し、現在は、ひとつの方法に固執するのではなく、会員それぞれで身につけた手法でEMを使いながら、生ごみを堆肥化している。

リサイクル法

①専用バケツ

ホームセンターでバケツを購入し、生ごみにEMホカシをかけて堆肥化する。方法、一杯になったら夏場は、5、6日、冬場は1週間ほど置いて、土に混ぜる。夏場は虫がわく、悪臭が漂うなどの課題が出てきた。

②ペットボトルを使う

500mlまたは1000mlの容器の口をくり抜いた容器に、生ごみをしっかりと詰め、EMホカシを振りかける。生ごみがいついかに腐ったか、悪臭を発生させて、土や植木鉢に産



◇45リットルのごみベールを使って
乾いた土と専用バケツまたはビール袋で作った生ごみ堆肥をサンドイッチにする。2週間から約1カ月で良質の肥料入りの土にできる。木の根元にかけて、植木鉢の土として使用できる。



植木にペットボトルを差し込むだけでOK

し込む。水分が多いときは、コローがす、茶ガラなどを加える。魚の骨、出しガラなど動物性のもを少し加えると状態が良くなる。植物の育ちがいいという。

◇ビール袋を使って(専用バケツのない場合)
ペットボトルに入りきらない、大きなもの、水分の多いもの(すいかの皮など)は、ビール袋に入れ、EMポカシをかける。専用バケツの場合と同じく、放置(発酵)期間を経て土に混ぜる。

ごみが減り、植物がいきいき

「ごみが目立って減り、うれしかった」
「枯れかけていた植物がEMで息を吹き返した」
「すぐさま、役に立っていることが実感できる」
「植物を育てる、楽しみを持ちながら、ごみ減らしができる」

「まったく生ごみを出さなくなった」
「口を揃えて『ごみが減るのと同様に、植物を育てるよる』びが実感できる。手軽にできるEM法をもっと広めたい」と、目を輝かせるメンバーたち。

このEMポカシは、専用バケツを扱っているホームセンターや薬店、お木屋さん、共同作業所等が扱っている。

本来、生ごみは土に還すもの その土がいのちを育みたい

↓京都土の塾(西京区大野野)↓

土と親しめ、土の上で語り合う。養分を土にふれあい、「ああ、よかった」と言う言葉を求めて、西京区大野野の休耕田を耕すようになつたのは、2000年6月。代表を務める八田達三さんの考えに共鳴する人々の手によって、荒れ果てた田畑は別事に残り、1ヘクタールの地をへー入に現在、8つのプロジェクトが活動している。その中で、生ごみのリサイクルを組み込んでいるのが「生ごみ」による「エトパワーアップ作戦」とひまりの里手づくりの会だ。6月からスタートした、このプロジェクトは、塾生が生ごみを自宅でそれそれリサイクルした堆肥を大原野の土の塾に運び込んできて土に還

リサイクル法

北山の杉間伐材を用いた木箱で堆肥(肥土)づくり

生ごみ

野菜くず、魚アラなど、なんでもよい。水を切り、大きいものはできるだけ細くする。これで微生物たちとの出会いが早く、多くなる。

土

どんな土でも問題ないが、乾いた土がよい。殺菌済みの市販袋詰めの新製品の土は避ける。

投入

木箱

しっかりしたすき間のない、フタつきの木箱(70×40×30センチくらい)に、生ごみに土をまぶすように投入する。

(分解・発酵)

なにも加えないが、微生物が生ごみをエサとして食べ、分解・発酵するのを夏は2日に1回(低温期は週1回でもよい)は、よくかき混ぜる。夏だと3~4日で分解・発酵。土はどんどん団粒化する。乾きすぎた場合は、水を加え、水分が多い場合には、乾いた土や水分を吸収するヌカ等を加え調整する。

団粒化した肥えた土

土づくりを目的とせず、生ごみ処理のみならば、土は適量を最初に入れるだけでよい。



京科土の塾代表・八田達三さん

している。
「化学肥料を使う前の昔のやり方でもしているだけ。これが本来の土づくりです」と、八田さん。自然な方法で作られた土を吸い込んで、里芋は、伸びやかな成長をみせていた。



左が魚アラ、右は家庭の生ごみを投入したもので。



朝ひやかに育つ里芋（8月6日撮影）

秋の収穫を楽しむにする塾生

自然な循環システムに習ったリサイクル法で、土に親しみながらの土づくりを実践している。京都土の塾、「生ごみ」による「土」バワーアップ作戦つきとびさりの里芋づくりの会」では、30名のプロジェクトメンバーたちが秋の収穫を楽しみにしている。生ごみと土と木屑だけの堆肥化は、人間の知恵の賜物。「塾生で土とふれあい、収穫を得る。その作業と時を通して本来の食を取り戻したい」と語る。八田さんに多くを学んだ。

市販の生ごみ処理機でコンポスト化野菜も栽培し、環境教育に役立てる
 京都女子大学初等教育学科
 総合教育研究室

笹橋直也 塾長、ランニングコスト、メンテナンスなど、なにかと問題が多く、普及にはずみがかからない家庭用生ごみ処理機。京都女子大学初等教育学科総合教育研究室 塾長 桑田進教授の研究室では、いくつかの処理機をテストし、比較、最も使いやすい処理機で生ごみを堆肥化、できた堆肥を野菜の有機無農薬栽培に活用し、目に見えるかたちで循環を実践している。

「生ごみを焼却処理すると自己、多くの問題をはらんでいる。昔の日本のように土に還す、循環の姿に学ぶべきなのです」と、高桑助教は語る。



コンポストによる堆肥化を実践する。高桑進助教

リサイクル法

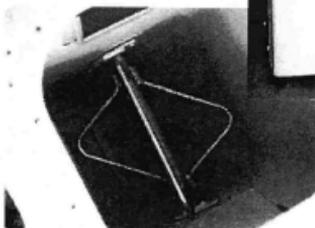
テストした3機種の中から1機種を選び、校内のベランダに2台設置して、職員の方々が家庭から持参した生ごみ（約1キログラム/日）を堆肥化している。



校舎のベランダに置かれたコンポスト機

コンポスト化の適正条件として、まず水分が適当であること。C（炭素）/N（窒素）の比率が適当であること。PHを5以下に下げないこと。酸素の供給が十分であること。温度が40〜60度に保たれること。プラスチックなど異物が混入しないことが挙げられる。

コンポストの大きな課題である悪臭の発生は、微生物による発酵を促進し、攪拌を容易にするビートモスやおかきすを投入することで解決されるといふ。



パイプが回転し攪拌。音は静かだ。

リサイクル法

生ごみ

投入

コンポスト機

特殊な特構造で、30分ごとに右へ4回転、逆回転を1回し停止

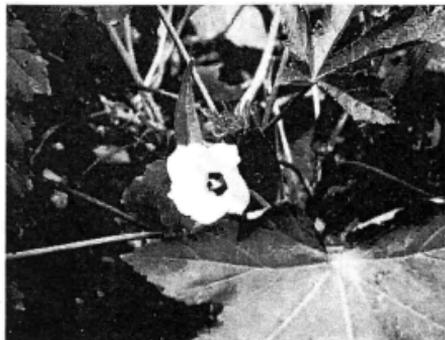
ビートモス、オガクズ、デンブンなどを混入

発酵を促進し悪臭を抑える効果

（攪拌・発酵）

（堆肥化）

約1カ月で30キログラム程度の生ごみから6キログラムの堆肥ができる。



校舎近くの畑で、トマト、ナス、オクラ等を栽培

循環を学ぶための生きた教科書になる

「生ごみを堆肥化し、土に還元、その土から野菜を育てる。その実践が学生たちの環境教育になる」と、高桑助教は、自分の手や目で通関の過程を実感してきており、学生たちについてはさらに多くの実践を望むという。

3通りの生ごみへの取り組み、紙やびんのリサイクルと違い、生ごみの堆肥化は、食に直結し、命につながる。生きている美観、育てる喜び、人と人とのいれあひなどを、生ごみのリサイクルを通して得るものは計り知れないようだ。それをおのりやすい方法で、ひとびとに、近くの人と手を組んでもいい、生ごみのリサイクルをはじめよう。

(レポート：田中真砂世、森田知都子)

生ごみリサイクルの事例

とよなか市民環境会議

豊中市の給食センターから排出される生ごみを市内の剪定枝を活用し、堆肥を生成させる実用化システムを推進している。

枚方市・生ごみリサイクル事業

コンポスト容器の貸与、EMボカシのモニター、米ぬかを使つての「生ごみ堆肥化土づくり」など、講習会を開催しながら生ごみ堆肥化事業を推進。

生ごみリサイクル全国ネットワーク

生ごみの性質に合わせ、落葉や剪定枝、米ぬかを加えながら、土壌動物、糸状菌、放線菌、バクテリアのリレーによる土壌微生物の働きを活用した生ごみの堆肥化を紹介している。

◆お問い合わせ◆

◆なんきんはぜの会

上田雅子さん
☎075-331-1940

◆京都土の塾

八田逸三さん
☎075-391-5325

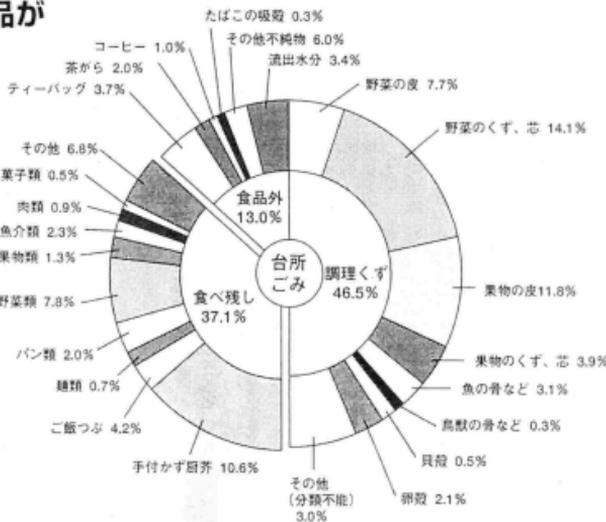
◆京都女子大学

高桑進先生
FAX075-531-7188

京都市・家庭ごみ組成調査より（平成10年3月版）

食べ残し・手付かず食品が 約40%

調理済みの食品の利用や外食の増加で調理くずは減っているのに食べ残しや開封もされずに捨てられる食品は増えています。



厨芥の内訳

平成13年度事業計画等を議題に 通常総会終わる

6月1日(金) 上京区平安堂ホールにて、通常総会が開かれた。買収物資持参・簡易台車推進キャンペーンなど平成12年度の総計1342万円にのぼる事業、秘密書類リサイクル事業などが報告された。

引き続き再生紙使用促進キャンペーンなどを盛り込んだ平成13年度事業計画及予算(案)が承認され、新役員選任の後、総会は閉幕した。その後、平成12年度調査研究活動において成果のあった「リナーナブルプラスチック研究会」の報告があった。



みんなで考え、描いた、ごみのこと こどもたちのマンガ教室開催

「こどもたちに大好きなマンガを通してごみ減らしを考えたい」と、去る7月28日(土) 平成13年度全市キヤンペーン事業として「ごみワークショップ」を開催し、ごみ減らしの大切さを学んだ。対象は、小学4・中学2年生まで。会場は、京都市ユニバーシティ協会東山青少年活動センター、工作室。

朝10時から会場に集まったこどもたちは自転車発着でテレビを観る体位をほしめ、4グループに分かれてプログラムをこなした。

午後、ハイムーン氏(元毎日紙京都市)が京都市推進会議長の助言でマンガにチャレンジ。大きな紙にそれぞれテーママンガを描き、楽しみながらごみについて考えた。

参加したこどもたちは「おもしろかった」「楽しかった」と言いながら、参加賞を手にした。

グループ①「ごみ箱に捨てる前に」



リユースなどごみ減らしの素直な考えを述べた。

グループ②「スーパーではじやく」

レジ袋を断ると、ノー包装でバラ売りの野菜

グループ③「地球からの感謝」

ごみ焼却場のけむりについて、ダイオキシンや森林伐採について

グループ④「良い人悪い人」

分別する人は〇、分別しない人は×

公園などごみで汚れている

なお、この日のごみ減らしが描いたマンガは、イニシヤの店頭で巡回展示された

カネト池袋、高野店、白梅明店にて

8月4日(土)・9月2日(日)。

076-2222-4091

市民向け実践講座開催に向けて ワーキングチームによるミーティング

あちこちで実践されているごみ減らしに「字はよ」というわけで、今年度から市民向け実践講座がスタート。講座の開催に向けて、去る8月1日(金)「市民向け実践講座ワーキング」が開かれ、実行委員(全市キヤンペーン実行委員会4名、地域活動支援4名で構成)が企画などについて協議した。現在、企画としては地球温暖化問題について、エコグッズなどの講座が候補に挙げられている。全3回開かれるが日程などは未定。



貸出します、啓発ビデオ 地域の学習会などにどうぞ

京都市環境局は、「ごみ減量への取り組みの普及を図るため」このほど啓発ビデオ「めぐるん」と考える。とすればごみ減量の「ご」を完成させ、ごみの現状やごみの種類ごとの出方の注意ポイントなどを強調込んだら分けて、たれにも取り組めるようになっています。

市では、地域の集まりや学習会に役立てています。貸出しを受け付けています。貸出し申し込みは、循環社会推進課まで。





2001年1月号5日講座風景 (家庭リサイクルについて)

エコロジはエコノミー2001 ごみ減量実践講座、今年度も開催

「エコロジ」はエコノミー・ごみ減量実践講座(共催：京都府工業会)が、平成12年度より続き、5回にわたって開かれる。第1回は、リクエンスの多かった京都市の産業廃棄物をテーマに、市環境局廃棄物指導課五十萬邦夫氏が講演(9月20日)第2回以降の内容は以下の通り。

- ◆第2回「資源リサイクル」 すぐにも始められる取り組み
今井光氏(全大阪魚肉白事業団組合)、池田由紀氏(フネ・フネ環境研究所) 10月12日(木)
- ◆第3回「リサイクル減らして商店街の活性化を」 安井周一郎氏(早稲田商工会議所) 11月15日(木)
- ◆第4回「おむつ取り組む事業者たむ」 森本啓一氏(アメリ村の会会長)、鈴木基一氏(鈴木松風堂) 12月20日(木)
- ◆第5回「出そろった循環型法体系と今後」 林 藍裕氏(ドイツ園芸講師) 1月16日(水)

今回は「リサイクル」をテーマとして、2001年2月北九州市工科大学(予定)も企画している。

平成13年度事業に向け 相次いでミーティング

平成13年度通常総会を受けて、今年度事業を推進するため、各委員会が話し合いが進められている。

- ◆全府キャンペーン実行委員会 6月26日(火)午後10時
- ◆通常総会報告、平成13年度事業予算・事業計画の承認後
- ◆市民向け実践講座の開催なども「リショップ」(7/28実施)
- ◆調査研究助成金などが交付された。
- ◆地域活動支援委員会 6月26日(火)午後1時30分



通常総会報告、13年度事業予算・事業計画の報告後、「エコロジ」はエコノミーごみ減量実践講座の推進と「ホームベージ」のメンテナンス(会報誌「エコ」を返すよう「取組」)について討議された。また、委員同士のミニセッションに「メールリスト」を作成し、広報活動を中心に、即で使用を開始している。今後はさらに参加者をふやしていく予定。

◆事業化委員会ワーキング 7月10日(火)午後を時、事業系推進ごみ袋のアンケート調査の実施や入札方法及び普及啓発について討議された。

左京区ふれあいまつりに出展 めぐるくん推進友の会が区単位で活動

市のごみ減量推進のOBで構成する、めぐるくん推進友の会において区単位での活動が始まった。

この8月19日「左京ふれあいまつり」では、左京区の会員らを中心にして、めぐレット(再生トイレットペーパー)や紙のリサイクルの活動事例を紹介した。京都市内の児童、生徒、教職員7,000人の参加から年間約133十萬個出される牛乳パックをリサイクルすると、直径14cmの針葉樹約240万本が伐採されずすむ。リクス内では、小学生の感想文の掲示をはじめ、来場者を対象にしたアンケートを実施した。



同会左京区のメンバーは、小学校、地元小中学校の環境学習に協力、小学4年生の社会科の授業に会員が出発し、授業が行われた。「リサイクルの前に発生抑制剤を、まず無駄をなくすこと」と「たばこローカルのち」紙やペットボトルの作られ方、どのような製品に安のか、を員体的にわかりやすく解説した。例えば、割り箸1膳分、はがき1枚の紙に、3個でA4の紙が1枚できること、実際に紹介したりしている。地元へ浸透していく、めぐるくん推進友の会の活動に期待したい。

(レポート) 田中真砂世

京都市環境学習・エコロジーセンター(仮称)の概要



来年4月開所に向けて、市民も参画

本施設は、平成9年12月に開催された「地球温暖化防止京都会議」を記念し、身近なごみ問題から地球規模の環境問題まで幅広い視点に立った「環境意識」の定着を図り、家庭、地域、職場などあらゆる場所で、環境にやさしい実践活動の輪を広げるとを目的として、平成14年4月の開所を目指し、現在整備を進めています。

本施設の基本計画から実施設計、学習プログラムなど開所に向けた事業に至るまで、「京都市市民協賛推進会議」や「京のアラウンドプログラム」で活躍されている会員をはじめ多くの方々には、御意見だけでなく実践的な作業にも関わっていただいています。

環境に配慮した施設が、伏見区深草に誕生

◆施設の概要

○設置場所／京都市青少年科学センター敷地内(伏見区深草)

○規模/地上3階建地下1階 床延面積約27,000㎡

◆設備等の特徴
本施設は、「太陽熱・放射熱利用冷暖房システム」、「自然利用システム」、自然素材など環境にやさしい設備や材料をできるだけ採用し、建物自体を展示物として紹介できるようにしています。

エコや地球温暖化など、環境活動の拠点として

◆事業概要

本施設では、NPOや事業者と協働しながら、さまざまな事業を展開していきます。

○常設展示・・・ごみ問題や地球温暖化問題にテーマをあて

環境問題と人間生活との関わりについて紹介し、環境にやさしい生活や行動を考える展示を行います。

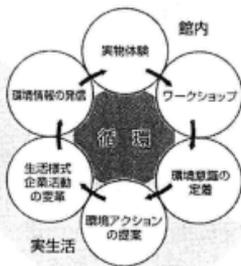
○啓発事業・・・お披露目・省エネルギーなどの体験学習やセミナー、イベントなどの事業を実施します。

○学校事業・・・青少年科学センターに來館する市内の小学5年と中学1年生全員に対し、展示や授業教材を活用した教育事業を提供します。

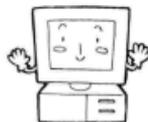
○人材養成・・・地域の取組に積極的に関わる環境リーダーや館内で解說等に協力してもらうボランティアの養成を行います。

○情報提供・・・環境保全に関するデータや活動などの情報をインターネットや情報誌を通じて提供します。

○活動支援・・・環境保全活動に取り組む市民・企業の方や各種団体に対し、場の提供や指導・アドバイスをにによる支援を行います。



詳細は下記へ。ホームページもご覧ください。



宇高史昭 UTAKA fumiaki 京都市環境局地球環境政策課
 ~Global Environmental Policy Section Environment Bureau,kyoto city~
 TEL:075-222-4037 FAX:075-222-4039
 E-Mail:INET:utaka@city.kyoto.jp http://www.city.kyoto.jp/kankyou

会 員 探 訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶれで構成される京都市こみ減量推進会議。それぞれの活動についてお話をうかがいました。

取材：濱利美穂（京大ゴ3組）



取材日(2001年9月2日)は、ちやうど協議会主催の「大原大掃除」の実施日で、早朝より多くの方々が高齢者活動に参加されていました。

大原地域環境 美化推進協議会

Q 最近、何かが影された伺いましたか？

A 平成13年6月4日環境庁より「緑の川」川口環境大臣から「地域環境美化功績賞」として表彰されていたのですが、大原住民の長年に渡る環境美化活動の実績が評価されたものとして、大きな喜びを感じております。ご参加・ご協力いただいた皆さまの方々から感謝しております。

Q 「大原大掃除」への参加は、中学生も多いですね。

A 実を言いますと、当該協議会設立のきっかけは、中学生だったんです。大原中学校生徒会会長昭和57年から「大原大掃除」を行っておりまして、当時としては非常に先進的だったと思います。それから19年後の平成9年、それまでの活動が評価され、環境庁長官表彰を受けましたが、その時に「中学生の積極性」に対して、大人は苦手しているではないかというところという話になりました。このような経緯をきっかけに、平成4年6月15日協議会が発足したのです。その最初の活動として、第1回くわん作戦（大原大掃除）を実施したと云え、500人の参加者と重南、黒瀬邸の協力を得て、1000坪の面積を清掃しました。集めたゴミを前日、「おみやげ」に包み込んで、その場で燃焼してしまっています。

Q すごく丁寧ですね。その後も定期的に継続されていますか？

A 大原大掃除は、清浄な水と水法投棄物の撤去を目的に、年1回の開催となっております。今回(平成13年6月4日)は20回目となります。午前8時30分に大原中学校校庭に集合し、多摩市内2カ所に重南清浄ポイント(大原校区全域10ポイント)を指定し、12時頃まで清掃活動を行います。集めたゴミは4台程度、徒歩の距離で行かれます。①家畜4頭②ゴミ③冷蔵庫、洗濯機、クーラー、④タイヤ類、⑤ハンカチ、⑥自転車、

⑦その他に分けて収集しておりますが、一回当たりの収集量は、①のみあわせて30t程度を推移しています。②は、600人の方々に参加した上、54t集まりました。ちなみに、開始以来の累積量は10000tに達しています。最終的には、国産ゴミ処理センター専用車に乗積し、そのゴミ処理場の回収していただく予定です。

Q 他に、行政や団体から支援を受けておられますか？

A 京都市や左京区役所の皆様からは、回収協力以外に、清浄道具(ゴミ袋や重手等)や運営費材(マイクや機軸等)を提供して頂いています。また、地区内事業者など、様々な面で協力頂いています。例えば、送迎用マイクロバスの提供、職員と重南の派遣、救急体制の整備、集積用車の提供、2つのサポートの上、住民の皆さんの積極的な参加を得て、この活動が止らないうと認識しています。

Q さて、今後の美化活動を展開されているか？

A パパロルは月一回のミニイベント(大原大掃除)定期開催や特設展を用いた啓発活動、大原大掃除の前夜・選考「U」の推進をテーマに、Uの旗を道路沿いに設置、③コンクリート容器整理等により道路環境化、④花の種植布、⑤公正取引所を訪れる住民や観光客のプレゼント、⑥桜の植樹、市役所入り50周年を記念して5年前より開始し、これまでに高野川沿いのO.O本以上植樹等を実施しております。



「環境美化功績者」の表彰状



取材に応じてくださった事務局長 飯後武史さん

大原地域環境美化推進協議会

活動拠点：〒601-1243
京都市左京区大原大長瀬町179
TEL：075-744-2455（大原公民館内）
設立：平成4年6月
会長：佐竹和男
事務局長：飯後武史さん



「この里を美しく」との旗
清掃後、安楽亭集合が実施され、その後、模擬店やライブと和やかな一時を楽しんでおられました。



Q 幅広い環境美化活動への決意を伺いたいです。

A 協議会には「環境美化推進の里」として、大原が愛され親しまれる地域とみなされ、住み良い環境づくりのため、自分たちの町は自分で守るという意志を持って環境美化活動に取り組んできました。今回の受賞を契機に、再度そのような決意に立ち寄り、活動の継続や充実と努めてまいります。

なぜレジ袋にノーと言えないの？

約760人の意見を聞くと…。

2000年秋、レジ袋を断ってふろしきを使おうと呼びかけている、ふろしき研究会（事務局：京都市北区）は、スーパーの店頭などで来店客を対象にアンケート調査を行った。京都市ごみ減量推進会議の助成を受け、延べ21名のふろしき研究会会員が参画した。

■調査の背景と目的

- 「CO2削減」、「地球温暖化防止」というようなとらえどころがないスローガンよりも、生活者が今日からでもできる、身近なごみ減量行動とライフスタイルの見直しを訴える。
- 買い物袋持参が広がらない。その要因のひとつとして「ノー！」と言えない生活者の心理が影響していることが考えられる。もし、買い物袋やふろしきを持参し、「レジ袋はいりません」と一言断れば、かなりの部分は家に持ち帰らずにすむ。
- スーパーや百貨店などの商業施設で買い物をする生活者に、レジ袋の知識普及に努め、ふろしきがReduce（減らす）、Reuse（再使用）を満たすエコバッグであることをPRし、ふろしきの使用を呼びかける。ふろしきは括弧だけ、包むだけでエコバッグになり、何度も使えるふろしきの便利さや魅力を多くの人たちに知ってもらふ。<ふろしき=環境にやさしい日常の生活道具>との認識を浸透させることが狙い。

Q あなたはふだんスーパーやコンビニでレジ袋をもらっていますか？

	人数	%
1. いつももらう	401	52.2%
2. ときどきもらう	262	34.1%
3. もらわない	105	13.7%
4. その他・無回答	0	0.0%
	768	

レジ袋は圧倒的多数がもらっている。もらわない人は少数派。

Q レジ袋はお店が消費者に提供する、当然のサービスだと思いますか？

	人数	%
1. 思う（当然のサービスだ）	339	44.1%
2. 思わない（必要のないサービス）	403	52.5%
3. その他・無回答	26	3.4%
	768	

レジ袋は必要のないサービスと思う人が過半数を占める。Q1の結果と矛盾する回答。意識と行動にズレがみられる。

Q あなたがレジ袋をもらう理由は何ですか？

	人数	%
1. ごみ袋などに再利用	449	58.5%
2. いちいち断るのがイヤだ	28	3.6%
3. なんともなく習慣でもらう	159	20.7%
4. マイバッグを持ってない	114	14.8%
5. その他・無回答	18	2.3%
	768	

レジ袋にゴミを入れ、それをまたゴミ袋に入れる、というゴミ袋の過剰包装ぶりがうかがわれる。レジ袋の使用がライフスタイル化し、暮らしに浸透している。

Q レジ袋が有料化され、一枚につき5円程度、必要になったらどうされますか？

	人数	%
1. たとえ有料でもレジ袋を貰う	81	10.5%
2. 自分の買い物袋を持参する	682	88.8%
3. その他・無回答	5	0.7%
	768	

レジ袋が有料化されれば、約90%の人が自前の買い物袋を持参するようになるのだ。お隣の韓国では2000年4月、レジ袋を有料化する法律が定められた。33平方メートル以上の売り場面積を持つ商店に対し、レジで配る袋を有料にすることが義務づけられた。

あなたのご意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由な発言コーナーです。どなたでもどんなご意見でも歓迎します。京都市ごみ減量推進会議までどうぞ。

〒604-8571 京都市中京区寺町通池
京都市環境局環境企画部
循環型社会推進課内
京都市ごみ減量推進会議事務局

☎ 075-257-5053 副 075-213-0453

E-mail gomigen@mbx.kyoto-net.or.jp
URL http://web.kyoto-net.or.jp/org/gomigen/index.htm

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう!!」NO.17
2001年（平成13年）10月発行
編集発行 京都市ごみ減量推進会議

エコペーパー100（製成5割100%再生紙、白色度80）を用い、大豆インクで印刷しています。

■調査の方法

- 調査対象／京都市内のスーパーや百貨店、環境催事などに来られた市民・府民（男女、年齢を問わない）
- 調査方法・期間／一人ひとりに直接聞き取り調査
平成12年10月13日～12月10日
- 回収数／768通（回収率100%）
- アンケート実施場所／イズミヤ高野店・大丸京都店・北野商店街ほか
- 調査人員／延べ21名